

MIKKE!

MIKKE! FUKUOKA

知らなかったフクオカを

知る 見る 発見

SNS発のWEBマガジン

ONLINE WEB MAGAZINE

ミッケ!フクオカ

Extra Edition

VOL. 25.5

VIEW
FREE

Special Interview

タケフェス第10弾

ぴえろ

作・演出：空間孝行

空間孝行

<http://mikefuk.net/>



公式
サイトは
こちら

福岡公演

スピンオフ
ドラマは
こちら

2022年11月5日(土) 12:00~/17:00~
※開場時間：各回 開演 60分前

会場 **ももちパレス** 福岡市早良区百道 2-3-15

《お問合せ》キョードー西日本 TEL.0570-09-2424(11:00~17:00 / 日・祝休)

宅間孝行 佐野和真 / 鈴木紗理奈 浜谷健司(ハマカーン) /
三戸なつめ 太田奈緒 竹内菜音 / 柴田理恵 / モト冬樹
西村佳祐 遠藤龍希

照明：日高勝彦 美術：向井登子 音響：野中明 衣裳：ゴウダアツコ ヘアメイク：伊熊美紗 音楽：コトブキミュージックラボ

振付：MIMI スタンドイン：西村佳祐 演出助手：遠藤龍希 監督：中西輝彦 仲里良

宣伝美術：山下浩介 宣伝写真：神ノ川智早 宣伝：石橋千尋 票券：河野英明

制作：椎木三奈 塩出純子 立野順子 ラインプロデューサー：都丸聡子 プロデューサー：佐々木 悠

協力：テイクオフ 企画：タクフェス 製作：エイベックス・エンタテインメント

主催：エイベックス・エンタテインメント サンライズプロモーション東京



チケット料金 ▶全席指定 8,900円
▶U-25 チケット：4,000円

※U-25 チケットは 25 才以下のお客様を対象としたチケットです（枚数限定）。当日劇場受付にて開場時間から整理番号順で指定席券とお引換えいたします。引換時に年齢明記の顔写真つき身分証明書が必要です。

※全席指定・税込

※未就学児童入場不可

※チケットをお求めの前など、随時劇場ホームページや公演に関するご案内をご確認ください。

※ご購入後の返金・クレーム及びお席の振替は一切お受けできません。予めご了承ください。

チケットぴあ

ローソンチケット

イープラス

タクフェスが第10弾として2022年にお送りするのは
下町人情あふれるサスペンスコメディ!!!
2001年の初演、2005年の再演以来上演されていなかった
宅間孝行の原点ともいえる衝撃作!
2013年のドラマ化を経て、ついに、ついに上演決定!!



沢木裕次郎
(宅間孝行)



川村靖
(佐野和真)

★ Specialist profile

1970年東京都生まれ。俳優、脚本家、演出家、映画監督。1997年劇団「東京セレソン」旗揚げ。2001年「東京セレソンドラックス」改名。笑って泣ける人情味溢れる作品を作り続け、東京ではチケットが取れないほどの人気劇団へと成長。2013年からは極上のエンターテインメントプロジェクト【タクフェス】の主宰として活動の幅を広げている。現在は第10弾『ぴえろ』の公演真っ最中。

タクフェス
Twitter宅間孝行
Twitterワークショップ
サイト

極上のエンタメ：タクフェスの仕掛け人

宅間 孝行

Takayuki Takuma

▶▶▶俳優は手段

10代の頃、世の中は空前のバンドブーム。例に漏れず自分も音楽をやっている、音楽で生きていけたらいいなと思っていた。でも「飯が食えないから就職する」と、仲間が一人また一人と音楽を諦め去っていった。気付いたら自分一人。さてどうしよう。でも諦めたくはない。漠然と「俳優になればCDデビューできるのでは!？」と考え、一歩を踏み出す。最初は俳優=目的を達成するための手段でしかなかったのだ。



▶▶▶見知らぬ世界

演劇に対する造詣が深いわけではない。映画やテレビドラマは人並みに観ていたが、演劇という世界に興味もなかったし知らなかった。そんな23~24歳の頃。目的を達成するため、俳優の養成所に入った。早速初舞台。演劇を「知る・観る」より先に「やる」ことになった。業界では有名であろう目の前にいる先生方のことも知らない。右も左もわからないまま歯車はゆっくり回り出した。



▶▶▶嫁げない!?

自宅に帰って2時間ドラマを観ていたら「稽古場にいるおじさんが出演してる!」なんてこともあった。その40~50代の俳優の私生活を聞いた時、思わぬ現実を叩きつけられた。毎日バ

イト生活だと…その時初めて気付いた。とんでもない世界に足を踏み入れてしまった。

▶▶▶劇団を立ち上げよう

このままではあのおじさん達のようにになってしまう。もし有名な劇団に所属して看板俳優になれたとしても、人気がいままで続くかもわからない。さて次の手段。自分で劇団を作れば看板俳優になることは確定。養成所時代の仲間と旗揚げをし、様々な舞台を観るようになって、演劇の世界が楽しくなってきた。

▶▶▶変わっていく手段

劇団を作った方がいいが、面白い作品を作らないとお客は観にきてくれない。そのためには人材もお金も時間も必要、つまり劇団を大きくしなければいけない。目的を達成するために手段が変わっていく。むしろ、手段が目的になってきたのはこの頃かもしれない。

▶▶▶演劇アレルギー

「演劇って難しいでしょ?」「高いから観に行かない」「ずっとお客様の方を向いて喋っているから観ていて恥ずかしい」演劇に興味がない方、演劇アレルギーを持っている人が少なくない。かく言う自分もその一人だった。だからこそ、お客様目線で作品を作ることを心掛けている。わかりやすい言葉を使い、お客様が作品の世界観に浸りやすい環境を整える。【演劇に対する愛】と言うより【お客様に対する愛】を意識しているのだ。

大友秋子
(鈴木紗理奈)小野寺
(浜谷健司)

STORY お問合わせ泥棒コンビの沢木(宅間孝行)とヤス(佐野和真)がその夜忍び込んだ先は、東京は下町、蔵前の寿司屋「すし政」。あっけなく見つかりボコボコにされ気絶…しかし翌朝目覚めた沢木を出迎えたのは「お帰り! テル!」という勘違いの歓迎の嵐で…

広岡
(浜谷健司)エリカ
(太田奈緒)



▶▶▶10年経っても

今でも心に残る言葉がある。『真剣に物事を突き詰め努力をし、10年経っても売れないならこの世界に向いていない』衝撃の言葉だったし、妙に納得して腑に落ちた。自分も10年経って33~34歳になった時、売れていなかったらキッパリ辞めよう。20代後半のある日の決断。

▶▶▶脚本を書こう

30代になり自分で脚本を書き始めた。今までは他の方の脚本演出する作品に出演していた。演出家は毎日いるわけではないし、脚本を手直しすることもある。それなら自分で全てやろう。その2本目が2001年に初演を迎えた『びえろ』なのだ。

▶▶▶この世界で飯を食う

本を書きませんか？出演しませんか？ありがたいことに仕事のオファーをいただく機会が増えてきた。そして33歳、テレビ番組のサブレギュラーも決まった。少しずつではあるが収入が入ってくるようになり、この世界で生きてくことを心に決めた。あれからちょうど10年が経とうとしていた。

▶▶▶批判も味方に

売れたり名が広がったりすると、やっかむ人達も増える。「宅間がやっているのは演劇ではない」攻撃的な言葉もたくさん浴びた。でもそれ

と同時に、「宅間は他の演劇人とは違うぞ、面白そうだ」とチカラを貸してくれる人も増えていった。そのご縁が今の仕事に繋がっている。

▶▶▶貧乏が当たり前!?

サブカルチャーに携わる人は豊かではない、貧乏で当たり前、そんな言葉をよく耳にする。なぜそれが当たり前なのか？稼げる方法だってあるはず！サブカルで豊かになったっていいじゃないか。敵を作ることも多いが、自分の言いたいことはきちんと口に出すようにしている。

▶▶▶本番で謝罪

脚本を書くのは毎回大変で産みの苦しみを味わう。年に数本抱えていた時期は、タイトルを決める→日程と会場を押さえチケットプレイガイドなどに連絡→チラシや出演人数やメンバーを決める→最後に脚本を書く、この流れで作品を作っていた。脚本が最後なのでチラシに書いたあらすじと、出来上がった作品が全く違うことに！本番当日、ご来場のお客様に「チラシのあらすじと全然違う作品になりました、すみません！」と謝ったことも。今ではいい思い出…とお客様が思ってくれていたら嬉しい。

▶▶▶お客様の声

普段からお客様の要望を取り入れている。特に『あいあい傘』という作品は、「誰も死なないでほしい」「バッドエンドはいやだ」全ての意見を取り入れた。出来上がったのはとても美しくクリーンな作品。その後は自分の琴線に触れる作品を作ろうと思いつく「くちづけ」という作品を作った。知的障害をテーマにした難しい作品ではあったが、たくさんの評価をいただいた。このような作品もお客様は受け入れてくれるのか…作ってよかったと思える瞬間。

▶▶▶号泣したい!

ありがたいことに宅間作品は泣ける、と言われる。もっと泣きたい、もっと号泣したい。お客様の要望は増すばかり。その想いにこたえなくなるのも本音。さて、今作『びえろ』の評価はいかに!? 東京公演を終え、SNSの #タクフェス #びえろ は盛り上がっている。

▶▶▶もう一回観たい!

映像でも演劇でも、【何回観ても飽きない、何度でも観たい】と思える作品を作るように心がけている。『びえろ』はとくに仕掛けが多いから一瞬たりとも見逃せない。家族や友人と一緒に観て、あーでもないこーでもないと、答え合わせする時間がさらに楽しいと思う。



大友春子
(三戸なつめ)



本庄純
(天田奈緒)



明菜
(竹内菜音)



藤原セツコ
(柴田理恵)



藤原源太
(千ト冬樹)



▶▶▶タクフェス

2013年からスタートしたタクフェスは、毎回出演者が変わるエンターテインメントプロジェクトだ。本番の20分前には出演者が登場し前説を行う。「びえろ」の場合は宅間孝行&佐野和真プラス他の出演者1人が登場。じゃんけんで勝った人に出演者の私物をプレゼントしたり、作品の解説をしたり、写真撮影もOKで盛り上がる。終演後もダンスを踊ったりトークショーをしたり、出演者みんなでお見送りをする時もある。硬っ苦しくなく、来てくださるお客様に楽しんでもらえる空間を作りたい。

▶▶▶スピンオフドラマ

TikTokとYouTubeで、「びえろ」のスピンオフドラマを無料配信している。スマホで観られるように縦型の映像で、3~5分程度の作品が19本。タクフェスにとっては初の試みだ。演劇に興味がない人にも届いてほしい。登場人物・舞台背景・関係性など知ることができ、内容もPOPなので気軽に観られる。「舞台を観に行けばこの登場人物たちに会えるんだ♪」と楽しみが増えるので、ぜひスピンオフドラマを観てから劇場に足を運んでほしい。ちなみに、本来は21本のドラマを作る予定だったが、出演者の1人柴田理恵さんがコロナ感染したため2本はドラマ化が叶わず。しかし、そのうち1本は、パンフレットにシナリオが掲載されているので要チェック。

▶▶▶これからのタクフェス

コロナが流行し、エンタメ業界は大打撃を受けた。福岡でタクフェスを行うのも3年ぶり。お客様は戻って来てくれるのだろうか。不安がないと言ったら嘘になるが、これからもタクフェスを全国に届けたい。同じ都市で何度でも公演ができるように、1ステージでも増やせるように、作品を作り・届け続けたい。

▶▶▶東京で小劇場

タクフェスとは別で来年2023年5月、小劇場【赤坂RED/THEATER】での公演も予定している。大きな会場とは違う楽しみに方があり、出演者ワークショップも年末に行く。

▶▶▶恥ずかしくない

夢があると、大変なこと・苦しいことも全て糧になる。夢じゃなくてもいいから、目標はあった方がいい。悔しくて泣くことがあっても人間として豊かになる。信じられないくらい頑張ってみる。「夢は絶対叶う」とは言わない。でも、うまくいっている人・成功している人は最初から「必ず夢を持っている」。とんでもない努力をしている。恥ずかしいとか照れくさいとか思わず、アホみたいに一生涯懸命やってみるのも楽しいんじゃないかな。



★ Interviewer profile

タレント・女優・声優



馬場 阿紀子

Akiko Baba



■福岡県那珂川市出身(元那珂川町)
■希望郷いわて文化大使

12歳で芸能界へ飛び込み、CM・トーク番組などに出演。高校卒業後、銀行員として社会人生をしながら演劇活動を始める。
22歳、銀行を退職しプロの劇団に所属。女優として全国飛び回る。
その後、KBCラジオで7年間パーソナリティをとめる。さらにアニメの声優デビュー、お芝居のプロデュースやテレビ番組のディレクターなど、表裏問わず活動は多岐にわたる。

公式サイトはこちら

タクフェス第10弾『びえろ』
<http://takufes.jp/pierrot/>

スピンオフドラマはこちら

タクフェス第10弾『びえろ』
スピンオフドラマ

何が本当で
何が嘘か??



タクフェス第10弾

ぴえろ



作演出
宅間孝行

協力 テイクオフ
企画 タクフェス
製作 エイベックス・エンタテインメント

東京公演

2022.10.7(金)-10.16(日)
サンシャイン劇場

その他
仙台・青森・福岡・札幌・大阪・足利・名古屋
にて上演!

出演
宅間孝行
佐野和真
鈴木紗理奈
浜谷健司(ハマカリー)
三戸なつめ
太田奈緒
竹内茅音
柴田理恵
王ト冬樹
他

<http://takufes.jp/pierrot/>

[公式Twitter]@TAKU_FES_JAPAN

タクフェス ぴえろ 検索

